

令和2年度卒業証書授与式 式辞

令和3年3月1日、本日ここに群馬県立高崎女子高等学校第73回卒業証書授与式を無事挙行することができました。卒業生の皆さん、卒業おめでとう。保護者各位におかれましては、ご息女の晴れ姿を目にして、一入と思います。また、ご多用にもかかわらずご臨席賜りましたご来賓の皆様には、改めて御礼申し上げます。

在校生の皆さん、聞こえますか。新型コロナウイルス感染症防止対策のため、残念ながら会場に入ることはできませんでした。しかしながら、リモートで式の様子を見守っていると思います。教室にいる1、2年生、皆さんが教室にいることを卒業生に伝えられるともいます。体育館に聞こえるように大きな拍手をしてくれますか。—ありがとう。聞こえました。卒業生の皆さん、手を振って合図してくれますか。映像が届くと思います。—それでは式辞を続けます。

卒業生の皆さん、今日は、今、拍手してくれた後輩たちに対して胸を張って卒業してほしい。本校で3年間学ぶことは、決してたやすいことではなかったはずですが。本校に入学してしまったために、それまで持っていたプライドを大きく傷つけられ、自信を失ってしまったという人もいます。また、時には苦しくて逃げ出したくなった時もあったと思います。しかし、ここにいる皆さんは、挫けそうになった自分に負けず、転んでも立ち上がり前へ進みました。自らの目標を定めて、夢中になってその実現に取り組みました。そんな皆さんの姿は後輩たちの良き模範となっています。自分には自分の姿が格好悪く見えていたかもしれませんが、他人が見れば輝いていました。だから胸を張ってください。高女の3年間で学び取ったことは、それぞれにおいて異なっています。その違いが個性です。そしてその個性を認め合い高め合うのが高女生です。そしてこの伝統を受け継ぐものとしての自覚が、高女生のプライドに他なりません。

さて、今日は皆さんが久しぶりに正装しています。紺の制服に白いブラウスと白いソックス、これがコントラストを作り、凜として引き締まっています。気付いているかどうか分かりませんが、生徒用昇降口の校訓の碑の周りには、多年草の花が咲きます。白と紺の桔梗です。花言葉は、白い桔梗は清楚、紺の桔梗が気品です。白と紺の桔梗は、清楚品位を象徴しています。部活動等で正装して大会に臨む時の品位ある清潔感は、この制服の力に依るところも大きいと思います。そして卒業式の今日、その制服が皆さんにたいへんよく馴染んでいます。

令和という時代が幕を開け2年になります。しかるに問題は山積みしています。命や健康を守るために何をすべきか、生活様式をどう変えてゆくか、最新技術をいかに活用するかなど、こういった問題を解決しないと先へ進めません。そこで解決するための知恵が求められますが、その知恵は過去にあることを正しく学び、そこから生まれる間に誠実に答えることによって得られます。学びの道を邁進してください。向学叡智のその先に新たな世界が誕生するはずです。

しかし、今しばらくの間は、新型コロナウイルスに不自由な生活を強いられそうです。十代後半の人生で最も多感でたくさんのことを学べる時期に、思ったとおりに活動できないのはつらいです。しかし、「明けない夜はない」と自分に言い聞かせましょう。そして夜が明けるのを待ちましょう。勇気を失ってはいけません。夜明け前の闇が一番深い時であっても、明朗闊達を心掛けてください。夜明けをもたらす太陽は、自らの内にあります。

結びに、夢は夢中の中にあります。なりたい自分を見付けて、夢中になってください。時が来れば花は必ず開きます。皆さんが花開く日を、楽しみにしています。

令和3年3月1日

群馬県立高崎女子高等学校

校長 高橋 康幸

